

# JOB REPORT

## バクアシステム、TBM工法に採用

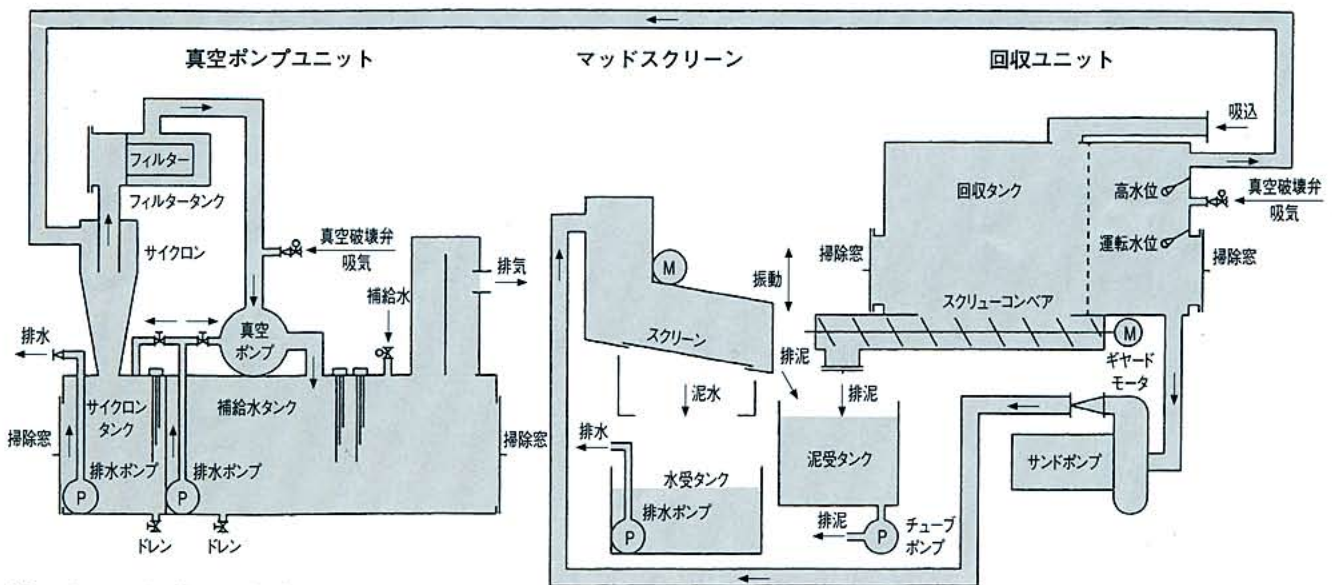
今までのバクアシステムはシールド工事で固定して使用されることが多かったが、今回はTBM工法(トンネル・ボーリング・マシン工法)に採用され、シールドマシンと共に台車に搭載されてトンネル掘削の奥深くまで移動し使用されることになった。

使用場所は東海北陸自動車道奥飛驒トンネル避難坑工事現場で、トンネル内の清掃工程においての汚水を分離できる装置について現場より相談があり、我が社のバクアシステムVS-20VA・VS-15PBおよび回収タンクをPR。それを基にして、これを応用した設計とすることになった。

設計条件として、回収タンクの最大容積も台車の大きさ上、最大1.0m<sup>3</sup>として、ポンプユニットVS-15PBから回収タンク+サンドポンプに変更され、後続台車の寸法内(高さ1,900mm、幅850mm)におさえなければならない苦労があった。

1 工区10kmをTBM工法で掘削。このシステムに各ゼネコンが注目しており、大きい期待が寄せられている中、2月末に発進し期待通りの性能を発揮して喜ばれている。

### 装置(R-001)フロー図



納入先 飛鳥建設鉄建建設共同企業体

仕様 X-001形真空ポンプユニット X-002形回収ユニット

- モータ出力 15kW
- 真空圧 -600mmHg
- 吸込量 7.9m<sup>3</sup>/min
- タング容量 最大1.0m<sup>3</sup>/min
- スクリューコンベア 16ℓ/min
- サンドポンプ K-245B

MST-10B形マッドスクリーン

- 処理能力 60m<sup>3</sup>/h

